

国 語 解答例 (部内秘)

問一 ①ちゅうかく ②当初 ③牧畜 ④維持 ⑤ほかく

⑥宙 ⑦ろうばい ⑧描写 ⑨さかのぼって ⑩うおうさおう

⑪遭遇 ⑫も ⑬いな ⑭余地 **1点×14=14点**

問二 Aおそらく、Bそして、Cいったい、Dたとえば、Eさて、**2点×6=12点**

問三 偏差 **4点×1=4点**

問四

世界の異なる現出、つまり偏差(ずれ)に対して私たちは「どうしてあのようにではなく、このようになるのか」と問いかけるといふ仕方で、向かい合う。つまり「問い」といふ仕方で思考が立ち上がるということ。(九六字)

・「偏差」(ずれ)が「当惑」を生み出し、さらに、「問い」といふ仕方で「思考」が立ち上がるといふ文意をおさえているかどうか。

秀20 優15 良10 可5 不可0

問五

思考にとって、世界はそれが現にあるこのようではなく、さらに別様にも現われ出うるといふ可能性にも開かれている。思考を思考たらしめているのは、この「可能性」であり、思考はあらゆる可能な状態をフル回転で模索する営みである。(二〇九字)

・世界はそれが現にあるこのようではなく、さらに別様にも現われ出うるといふ「可能性」の指摘があること。

秀20 優15 良10 可5 不可0

問六

この文章を読んで、人間にとって「思考」とは、みずからをとりまく世界の偏差(ずれ)に直面して、それへの「問い」といふ仕方で始動するものであることが理解できた。身の回りの事物や人間関係、および地域や世界の動向に、常に目を向け、その在り方の偏差(ずれ)に注意し、「いかにあるべきか」といふ「問い」を持ち続けるよう努めたいと思う。そして、さまざまな可能な状態を想定し、その中から正しい選択肢を選択していきたい。(二〇一字)

・表記、字数(適切であるか)

・内容(文章で表現されている内容についてよく理解し、自分の問題として考えているかどうか)
——思考の成立、つまり「当惑」から「問い」といふ仕方で「思考」が立ち上がること、
思考の結果得られた答えに基づいて行動すること

秀30 優25 良15 可5 不可0